

第85回通常組合会開かれる

去る7月20日（金）、当職別国保組合の第85回通常組合会が上京区のルビノ京都堀川で開催され、平成23年度事業報告、同歳入歳出決算を中心に審議され、提出議案すべてが原案通り可決承認・認定されました。



平成24年7月組合会 理事長開会あいさつ

理事長 松田 等

- 本日は、第85回組合会を開催させていただいたところ、議員の皆様には何かとお忙しい中、曲げて御出席賜り厚く御礼を申し上げます。
- 本年度は、議員さんの改選期に当たっており、各選挙区から35名の議員さんの御推薦をいただきました。
- 本日は、第21期の議員さんによる最初の組合会でありますので、正副議長さんを選任いただくほか、法令遵守に関する組合規約の一部改正、支部長さんの交代に伴う役員の選任、23年度の事業報告、収支決算などについてご審議いただくこととしております。
- 23年度の実質単年度収支決算につきましては、21年度は2019万円の赤字、22年度は327万円の黒字でしたが、23年度は2140万円の赤字となりました。
しかし、療養給付費補助金について、23年度に4493万円の過払いを受けている関係から、24年度に国に返還しますので、それを加えますと、6633万円が実質的な単年度収支赤字額となります。
- 法令遵守体制の整備の関係ですが、各支部において、支部規約の改正や、互助会あるいは共済会会則の制定等について、お取組みをいただいているところですが、そもそも保険料は保険者、つまり支部以外の者は徴収できないこと、支部は保険料しか徴収できないこと、支部の会計は他の会計とは別に設けることなどを国から求められておりますので、御対応方よろしくお願いいたします。
- なお、国の動向については、御承知のとおり「社会保障と税の一体改革関連法案」が衆院を通過したところですが、去る6月15日、民・自・公の3党が確認書を交わし「今後設置する社会保障制度改革国民会議で具体的中身を検討する」とされたところです。
つまり、国保に関することは今後検討されるということになっています。
また、後期高齢者医療制度廃止や定率補助の見直しも今国会での成立の見通しは立っていません。
しかし、いずれにしても我々国保組合に対する補助金だけは、今後も減らされることだけは確実です。
- 今後も、我々国保組合を取り巻く環境は厳しくなることが予測されますが、一致結束して、ことに当たっていきたいと考えています。
議員の皆さんにおかれましては、このあとの議案審議を含め、よろしく御礼申し上げます。

< 新任役員紹介 >

役職名	氏 名	所 属
理 事	伊 達 靖 史	京都府建具商工業協同組合